

神戸長田・兵庫のアーティスト・クリエイター集積の形成

～大都市の創造の場としての再生～

国際商経学部

准教授 和田 真理子

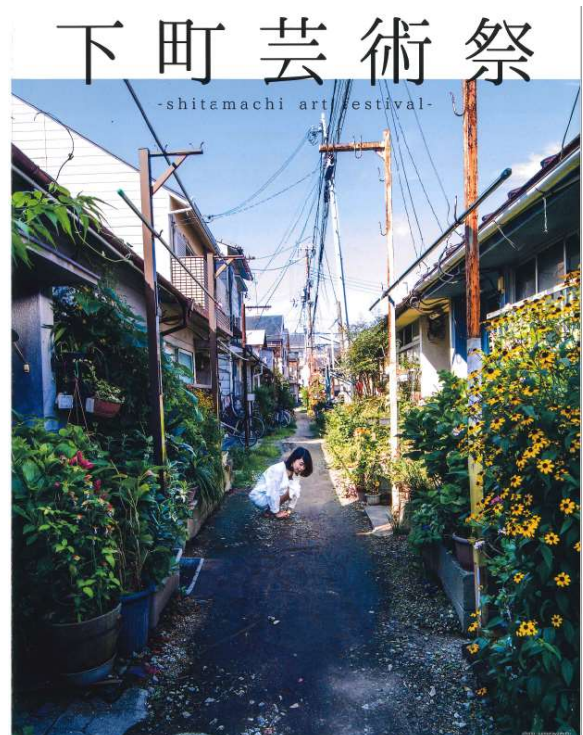
キーワード

インナーシティ再生, 文化芸術, 産業集積, 多様性と創造性

研究概要

人口減少や空き家の増加が続く神戸のインナーシティ、長田・兵庫地区では、近年アーティスト・クリエイターの集積が形成されつつあり、「下町芸術祭」のようなアートイベントが定期的に行われるようになった。下町芸術祭および集積に関わる人々のインタビューなどを分析した結果、以下のことが明らかになった。

- ①長田・兵庫地区では、アーティスト・クリエイターの集積が形成されつつあるが、全体で一つの集積ではなく、局地的な塊がある。その中では、関係する人々が日常生活圏を共有する密なネットワークを持っている。また、アーティスト等だけではなく、多様な人が関わっていることが特徴である。
- ②下町芸術祭にみられるように、アーティストがインナーシティの風景や雰囲気から刺激を受け、活用していることがうかがえる。さらに、多様性・環境に関わる寛容性、プライベートを共有しつつ仕事としての付き合いを大切にする「仕事でつながるコミュニティ」、利便性が高いわりには土地が安いといった、インナーシティの特性が集積の形成に役割を果たしている。
- ③インナーシティの特性は創造性の素地となりうるが、本格的な再生をもたらすには多くの困難がある。よりクリエイティブな場となるために、必要な対策は、まず、第一に活動する人の支援、第二に活動の場となる土地建物を利活用しやすくすることである。



下町の風景をフィーチャーした芸術祭パンフレット

アピールポイント

知識経済時代の都市の強みは、多様な人々が様々な出会いを通して新しい知識にアクセスし、さらなる新しい知識を生み出すことである。この中でアートや文化の果たす役割が注目されており、それは都市観光のマグネットになると同時に、生活の質に影響を与え、創造的アイデアやイノベーションの源泉となり、都市イメージやアイデンティティに関わり、社会的統合や寛容性にも関係するといわれる (Euricur)。創造性の素地を持つインナーシティが「新しい知識を生み出す場所」「アートや文化の根ざす場所」として再生することは、都市の経済・社会の発展に大きな役割を果たし、また都市のコンパクト化にも貢献する。